

ブータンのあそび歌ツァンモの実際
—ハ県ダンチョ村の場合—

The present state of playful singing dialogues “*tsangmo*” in Bhutan:
A focus on the case in Dumcho, Haa Dzongkhag

伊野義博, 黒田清子*, 権藤敦子**, ツェワン・タシ***, ペマ・ウオンチュク****

Yoshihiro Ino, Kiyoko Kuroda, Atsuko Gondo, Tshewang Tashi, Pema Wangchuk

The authors have continuously researched playful singing dialogues *tsangmo* in some regions of Bhutan. The present paper is a report of a field survey on *tsangmo* which was conducted in September 2019 at Dumcho Village, Haa Prefecture, Bhutan. The contents are as follows:

1. Introduce the geographical and cultural background of Haa and report the actual condition of playful singing dialogues *tsangmo* in Haa.
2. Report the commonality and characteristics between the *tsangmo* of Haa and *tsangmo* of other areas in Bhutan.
3. The authors categorize how to play *tsangmo* and discuss what *tsangmo* is a social/cultural act based on the interactivity and improvisational characteristics of *tsangmo*.

Tsangmo, played by eight villagers, was played in the order *tsangmo* motapni (Prophecy/divination made about individual), *tsangmo namkey cheni* (Prophecy/divination made about the compatibility of the two persons), and *tsangmo cheyni* (musical dialogue between two groups or between two individuals). These three are typical ways of playing *tsangmo* that have been seen in other areas. Also, some villagers said that it was the first time in 40 years to play *tsangmo*. As in other regions, the opportunities to play with *tsangmo* are rapidly disappearing due to the modernization of school education and changes in the industrial structure.

In *tsangmo* of Haa, the lyrics of *namkey cheni* were characteristic. *Namkey cheni* is a prophecy/divination that while singing, one of the participants point the item with a stick and the pair is decided by (the owner of) the item pointed to at the end of the song. Furthermore, the compatibility of the pair is predicted by the content of the sung poem. This way of playing is the same in other areas. However, in *tsangmo* of Haa, rather than divine the compatibility of the two persons by the content of the lyrics, they called the gods (such as god of heaven (*Thencho lhayé*), god in the middle of heaven and earth (*Barcho tshen*), and gods of the underworld (*Wochu lue*)), and asked the gods about their compatibility. Since faith in these gods is widely found in the Tibetan cultural region, the relationship between *tsangmo* and folk religious belief needs to be understood not only in Bhutan but also in the Tibetan cultural region.

From previous surveys, it has become clear that *tsangmo* has various ways of playing. The first thing that is common

2020.6.2 受理

* 金城学院大学非常勤講師

** 広島大学教育学研究科

*** バロ教育大学

**** フリーランス ツアーガイド

to the *tsangmo* is that it is a "divination (mo)" by "twigs (tsang) ", as seen in *motapni* and *namkey cheni*. The awe and faith in the spirituality (divinity, Buddhism, or truth) created by the lyrics sung seems to be the heart of *tsangmo*. The second is the importance of the action of mutual communication, as seen in *cheyni*. The combination of the above two characteristics, that is, the face-to-face communication behavior centered on "divination" and "prayer" creates the social/cultural act of *tsangmo*, and this act makes *tsungmo tsangmo*.

1 はじめに

ツァンモ (*tsangmo*) は、6音節4行の全24音節から成る定型詩が、一定の旋律にのせて歌われ、歌を掛け合うことにより2グループで対決をしたり、互いの相性を占ったりするブータンのあそび歌である。歌詞は、ブータンの景色、動植物、生活風景、仏教的知識に関する語が用いられ、ブータン文化が織り込まれている。かつては放牧や野菜の皮むき作業等の仕事の合間に子どもによって歌われることも多かった。現在、子どもは学校へ通うようになり、また、人々の生活形態も急速に変化し、ツァンモは歌われなくなっている。

筆者等は、2010年からツァンモを中心としたブータンの民俗音楽について調査、報告を重ね、検討してきた(伊野2012, 伊野ほか2014a, 2014b, 伊野ほか2015a, 2015b, 伊野ほか2016, 伊野ほか2017, 伊野ほか2018, 伊野ほか2019)。これまでの調査地は、2010年10月パロ (Paro), 2012年9月プナカ県 (Punakha) チャンイー (Chang Yue) 村, 2013年10月トンサ (Trongsa) 県ツァンカ (Tshangka) 村, タンシジ (Tangsibji) 村, 2014年9月タシガン (Trashigang) 県メラ (Merak), 2017年9月ダガナ (Dagana) 県ツェザ (Tseza) 村, 2018年9月ラヤ (Laya) などである。また、学校での調査として、2015年9月ワンデュポダン (Wangdue Phodrang) 県サムテガンセントラルスクール (Samtengang Central School), 2016年9月ティンプー (Thimphu) のケルキ高等中学校 (Kelki Higher Secondary School), パロ教育大学 (Paro College of Education) を取材、この他に2015年ブータン国营放送 (Bhutan Broadcasting Service Corporation), クズ放送局 (Kuzoo Radio) におけるツァンモに関する放送の聞き取り、加えて2016年ティンプーにおけるツァンモ大会やシンポジウムを実施している。



地図1 これまでの調査地 (□) と今回の調査地ハの位置 (○)

このような調査や企画の実施を通して、ツァンモの種類は、ツァンモにより相性占いをおこなうモタプニ (*tsangmo motapni* 品物を媒介とした予言, 占い) や、グループに分かれ歌を掛け合って戦うツァンモ・ツェニ (*tsangmo cheyni*), 品物を媒介したペアの相性占いであるナムケ・チェニ (*namkey cheni*) に大別できた。また、この他にも、一人の歌い手が他の者に歌いかけ、その歌詞により占うレトロ・ドムニ (*lathro domni*) や参加者が一人ずつ歌い回してあそぶ「まわりうた」の形など、多様な姿が見られた。

ツァンモの歌詞内容の種類についても、以下のように分類できた。

- ・ニェン・ルー (*niyen lue* : 耳に心地好い歌。 *niyen* は、仲良くなる、耳に聞こえるいいこと、 *lue* は歌)
- ・ダ・ルー (*dra lue* : 喧嘩の歌。 *dra* は喧嘩、敵)

・ダニエン・バルマ (*draniyen barma*: ニエン・ルーとダ・ルーを混在させたもの。*barma*は真ん中の意)

このように歌詞の内容はそれぞれ異なる性格を持っており、例えばツァンモ・ツェニにおいては、こうした歌の性格を巧みに取り入れ、ニエン・ルーからダ・ルーへ、そしてダニエン・バルマといった流れで行われるケースも見られた。なお、この他にも、トエ・ルー (*toey lue* ほめる歌) チョ・ルー (*cho lue* 悲しい歌), ガ・ルー (*gha lue* 幸せな歌), メイ・ルー (*mey lue* 侮辱の歌) などの歌の性格に対する呼称があるという (伊野ほか2017)。

さて、これまでの調査に続け、2019年には、ハ (Haa) 県でのツァンモを探った。期間は、9月26日から28日の3日間、調査者は、伊野義博、黒田清子、権藤敦子、ツェワン・タシ、ペマ・ウォンチュクスの5人である。調査は、ツァンモを実際に行ってもらいそれを録音、録画するとともに参加者への聞き取りにより実施された。

本稿では、①ハの地理的文化的背景を紹介しつつ、②ハにおけるツァンモの実際を記述するとともに、③ハのツァンモの他地域との共通性や特徴を浮かび上がらせたい。④その上でこれまでの調査から得られたツァンモの遊び方について類型化するとともに、掛け合いと即興の行為の特性から、ツァンモという行為がいかなるものであるかについて検討する。なお、文中写真掲載については、本人の了承を得ている。

2 ハの概要

ブータン西部に位置するハ県は、北は中国のチベット自治区、西はインドのシッキム州、南はサムツェ県とチュカ県、東はパロ県と接している。古来交易の重要なルートで西の玄関口として発展した。1914年に初代国王 (Ugyen Wangchuck 1862-1926) の提案により、46人の子どもがインドのカリポン (Kalimpong) に留学し、ハでも授業を受けた。ブータン初の公学校 (現ゴンジム・ウゲン・ドルジ高等中学校 *Gongzim Ugyen Dorji Higher Secondary School*) があり、ブータン学校教育はじまりの地である。チベット国境が閉鎖された1960年以降は、国境線のためインド軍の駐留地であり、外国人観光客の受け入れは2001年まで制限されていた。そのためパロやティンブーと比べると伝統的な生活や古い町並みが残されており、またそれらを残すためホテルの建設などの観光開発は禁止されている。



地図2 ハ県地図

(Location of Haa dzongkhag within Bhutan

https://en.wikipedia.org/wiki/Haa_District#/media/File:Haa_Bhutan_location_map.png より黒田作成)

ハへは、パロから車でチェレ・ラ峠 (Chere la, 3,800m) をこえて約3時間で、小さな商店が並ぶハの町 (標高約2,730m) に到着する。ハ県は6つのGewog (地区) からなる。県北部の大部分がBji Gewog, ハの町はパロに近い東部Katsho Gewogにあり、ハ・チュ (Haa Chu 川) をはさんだUesu Gewogにはハ・ゾン (Haa Dzong 城砦。現インド軍駐留地) があり、その背後に三連山 (Miri Punsum) が、北から金剛手 (梵: Vajrapani, ゾンカ: Dorje Chang/ Chana Dorji), 観音 (梵: Avalokitesvara, ゾンカ: Chenrizig), 文殊 (梵: Manjusri, ゾンカ: Jowo Jampa/ Jampelyang) の三菩薩 (梵: Bodhisattva, ゾンカ: Ringsum gompo) を象徴する聖なる山が並ぶ。その南にSamar Gewog, Sangbay Gewog, Gakiling Gewogという区分である。Bji GewogとSangbay Gewogの大部分はトルサ自然保護区となっている。人口は県全体で2,952世帯13,655人と少なく (2017年国勢調査), 面積は約1,900km²で標高は1,000m~5,600mと幅が広い山岳地帯である。約75%は森林に覆われ林業が主要な産業となっている。その利用がわずか2%の農地では、蕎麦, 大麦, 小麦, ジャガイモ, りんごなどが栽培されている。北部の住民はヤクの放牧を生業とし、そのほか牛, 鶏, 豚, 馬などの家畜がみられる。

部の住民はヤクの放牧を生業とし、そのほか牛, 鶏,



左写真1 ハの溪谷 (Bhutan Lost Kingdom Tours & Treks.<http://bhutanlostkingdomtours.com/>)

右写真2 チュンドウ (Phub Dorji Wang.<https://www.phubdorjiwang.com/.1.2>とも2020年3月23日閲覧)

ハの主な特徴は、南北に標高差のあるハ溪谷である。神秘的な溪谷にはさまざまな伝説が残る。8世紀にパドマサンバヴァ (Padmasambhava ニンマ派開祖。ブータンではグル・リンポチェ Gu ru rin po che) が密教を伝える以前はボン教が信仰されていたという。この地域では、土地の神チュンドウ (Phola Mansang Chungdud/ Pholha Masang Chungdue) が様々な災厄をおこしていた。8世紀または9世紀の初めに、グル・リンポチェはこの地域にやって来た。グルの儀礼によってチュンドウは調伏され、以後仏教・国家鎮護に奉仕することを誓い、ハの土地神・守護神となった。このことがペマ・リンパ (Pema Lingpa ニンマ派の埋蔵經典発掘者テルトン1450-1521) の啓示書 Thuji Chenpo Muensel Droen-me にあるという。

14世紀に (Lam2013では15世紀とされる)、シェラブ・メバル (Sherab Mebar ニンマ派のラマ、テルトン) がチベットのカム (Kham) からハに到着した。テルトンはヌプツォナパタ (Nob Tshonapatta) 湖を口に入れ、湖底からダウン (dung 喇叭), ンガ (nga 杵太鼓), リム (rim 鏡鉞) を取り出した。ヌプツォナパタの神は激怒しテルトンを追いかけた。シェルトンシヨのラブツァ (Tshellutsho Labdza) という場所で、チュンドウが現れ、テルトンと湖の神の休戦を交渉した。その際の条件は、テルトンとパンビサ (Pangbisa) の信者が、ハ・ショゴナ (Ha Shogona) 村に足を踏み入れないこと、同様に湖の神はラブツァをこえないということであった。ヌプツォナパタの底からシェラブ・メバルによって発見されたグル・リンポチェの鏡鉞は、パロのリンブン・ブン (Rinpung Dzong) の主要な宝物となり、毎年パロ・ツェチュ祭 (tshechu 「10日」) を意味するグル・リンポチェを称える法要祭の初日に展示される。

そのほか、チュンドウはチベットとの戦争で活躍したことから、シャブドゥン・ガワン・ナムゲル (Zhabdrung Ngawang Namgyel 政教両面の統治者1594-1651) から年に一度ヤクの動物供犠が許されたなどの伝説があり、チュンドウ信仰はこの地域の祭りや儀式の中に残されている (Lam 2013:50-56)。

3 調査概要

ハでは、町の中心から2kmほどの地にある民宿 Pema Wangmo Stay at Home に滞在し、ツァンモ調査は2019年9月26日 Uesu Gewog, Dum Cho 村のカチ Kachi 宅 (白寺ラカン・カルポ Lhakhang Karpo 隣の民家 Ugyen's homestay Haa Valley Homestay と同じ建物) で行われた。

ここにたどり着いた背景として、パロの土産物屋が民宿ペマ・ウォンモを紹介してくれ、ペマ・ウォンモがカチを紹介してくれ、カチがツァンモを知っている仲間を集めてくれた。ハの人はパロに出稼ぎに行くほか、パロで稲刈りを手伝いその代償として米を貰うなどの交流があるという。

4 ハのツァンモの実際

今回カチ宅で催されたツァンモに参加したのは、48歳から80歳までの女2人、男6人の近隣住人で、①カチ Kachi (女48歳、家の主人) ②ウゲン Ugyen (男51歳、隣人) ③アム・ペム Aum Pem (女55歳) ④ソナム・トプゲイ Sonam Topgey (男56歳) ⑤ナムゲ・ウォンチュク Namgay Wangchuk (男46歳) ⑥ピンツォ Phuntsho (男68歳) ⑦ハブ・ツェリン Lhab Tshering (男80歳、赤) ⑧ナムゲ・ドルジ Namgay Dorji (男

54歳)の計8人となった。なお、⑥ピンツォが、「今日は楽しみ、喧嘩してきた」といってカチ宅に入ってきたのが印象的であった。これらの人々によって、ツァンモ・モタブニ、ツァンモ・ナムゲ・チェニ、ツァンモ・ツェニが行われた。以下は、その詳細である。

4.1 ツァンモ・モタブニ (*tsangmo motapni*)



写真3 円になって座る



写真4 ツァンモで使用した品物

まず、人数が揃ったところで、左から⑦⑥⑧③⑤④②の順に円になって座る(写真3、以下写真は伊野2019)。円の中央に品物を置き、それぞれ次のように品物の持ち主を決める(写真4)。

- ・デイル・ドルジ (*drilbu dorji*ベル) —⑧ナムゲ・ドルジ,
- ・チャカ (*chaka*ドマ入れ) —③アム・ペム,
- ・ドレイ・チャ (*drey cha*ドマつぶしの棒ナイフ) —⑤ナムゲ・ウォンチュク,
- ・ティミ (*timi*石灰入れ) —④ソナム・トプゲイ,
- ・ドプチュ (*dopchu*腕輪) —②ウゲン,
- ・ポプ (*phob*器) —⑦ハブ・ツェリン,
- ・サンコ (*sungkho*お守り) —⑥ピンツォ



写真5 ツァンモ・モタブニ

「占う人」の役となった⑧ナムゲ・ドルジが、歌いながら木の棒で時計回りに歌詞の一音節一回を基本としながらそれぞれの品物を順番に指していく(写真5)。歌い終わった時に指された品物の持ち主に対して、歌われた歌詞の内容により占う。このモタブニでは、次のように参加者の数、すなわち7回歌が歌われた。楽譜は、最初に歌われた歌の採譜である。楽譜中の●は、品物を指した箇所を示している。以下、実際の様子を記す。

♩=120 歌 : Namgey Dorji

Ja na - ti - ng lay la tho - n pi Se - r ku - cha - na - - - la dor - ji

Choe ni - jin la - - p che - ru - - Nga ni la cha - wang mi zhu

楽譜1 ツァンモの旋律 (伊野2020)

1. ⑧ナムゲ・ドルジが歌い、ベルから時計回りに指しはじめドレイ・チャ（ナイフ：⑤ナムゲ・ウォンチュク）に当たる。ドレイ・チャを⑤ナムゲ・ウォンチュクが自分の前に置く。他地域でもよく聴いた歌詞である。（歌詞は一行6音節だが、歌い手により音調を整える語呂合わせの役割の「la」が適宜挿入される。）

Ja na ting ley la thon pi	インドの南の方からもってきた
Ser ku cha na la dorji	金の金剛菩薩
Choe ni jin lap che ru	それがパワーをもっている
Nga ni la cha wang mi zhu	私は五体投地しません

解釈例：どんなに素晴らしい人でも、何でも持っているお金持ちでも好きになりません。必要ありません。

2. ⑧ナムゲ・ドルジを主体に皆が歌い、ベルから指しはじめサンコ（お守り：⑥ピンツォ）に当たる。⑥ピンツォが手に取って自分の前に置く。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Pha ri pang gi la lo la	離れた平らな所に
Sha wa yang dro la mang dro	鹿が上にいたり下にいたり
Yang dro tsa yang ma za	上にいっても草も食べない
Ma dro la chu yang mi thung	下にいっても水も飲まない

解釈例：何にも興味がない人は必要ありません。何かしてあげても喜んでくれないし、いいとも思われないから。

3. ⑧ナムゲ・ドルジを主体に皆が歌い、ドブチュ（腕輪：②ウゲン）に当たる。④ソナム・トブゲイが取って②ウゲンの前へ置く。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Choe ni jamtsho la phaka	あなたは海の向こうにいます
Nga ni jamtsho la tsuka	私は海のこちらにいます
Leydo mi lam yoe na	もしご縁があるのなら
Jamtsho la bu lu zom sho	海の真ん中で会いましょう

4. ⑧ナムゲ・ドルジを主体に皆が歌い、ベルから指しはじめボブ（器：⑦ハブ・ツェリン）に当たる。⑥ピンツォが取って⑦ハブ・ツェリンの前へ置く。ブナカ（2012）サムテガン（2015）でも聴いた歌詞である。

Jam tsho bu ley la thum pi	海の下からでてきた
Norbu dung khar la yel khir	宝石のようなほら貝
Chi ta karchang dang mey	外から見ても真っ白
Nang la sung key hen me	中からいい音がする

解釈例：とてもすばらしい人間です。顔も美しい、心も優しい、いい人です。

5. ⑧ナムゲ・ドルジを主体に皆が歌い、ベルからティミ（石灰入れ：④ソナム・トブゲイ）に当たる。⑥ピンツォが取って④ソナム・トブゲイの前へ置く。糸永（1986）に同じ歌詞がある。

Lam sum zom bi la bu lu	三つの分かれ道の間（真ん中の道）に
Ser gi khawa dap zha yoe	金の柱が立っています
Di la dho mi yoe na	それに触ろうとする人がいたら
Rinchen soda drey wong	大事な命がなくなりますよ

解釈例：村にいるとても美しい人、大好きな人。その人と話したり、そばにいたりしたら殺しますよ。

6. ⑧ナムゲ・ドルジを主体に皆が歌い、ディル・ドルジ（ベル）から指しはじめ、チャカ（ドマ入れ：③アム・ペム）に当たる。③アム・ペムの前に置く。3の「海」を「峠」に替えた歌詞と思われる。

Choe ni la mey jab ley	あなたは峠の向こう側
Nga ni la mey la dong ley	私は峠のこちら側
Ley da milam yoe na	ご縁があったら
Laptsa la bu lu zom sho	頂上で会いましょう

7. ⑧ナムゲ・ドルジが歌い、皆も歌う。ディル・ドルジ（ベル）から指しはじめ、ディル・ドルジ（ベル：⑧ナムゲ・ドルジ）が残る。持ち主の⑧ナムゲ・ドルジが自分の前に置き、お坊さんに決定する。ダガナ（2017）で同じ歌詞が聴かれた。

Choe lu cha chi la mindu	あなたはベア（左の片方）がない
--------------------------	-----------------

Nga lu ya chi la mindu 私も同じくペア（右の片方）がない
 Cha mey ya mey ni ku （右の靴と左の靴，ペアだと cha ya）ペアのない人は
 Dam bi choe la dro gey 修行に行きましょう
 解釈例：修行するしかない。一緒に修行しに行きましょう。

最初このようにモタプニをやり，お坊さんを決めて，ナムケ・チェニに入る。お坊さんになった⑧ナムゲ・ドルジは，次のナムケ・チェニには参加しないことになる。



写真6 ナムケ・チェニ

4.2 ツァンモ・ナムケ・チェニ (namkey cheni)

⑧ナムゲ・ドルジの品物であったデイル・ドルジ（ベル）が脇によけられ，残った6つの品物，チャカ（ドマ入れ），チャカ・ティミ（石灰入れ），ドプチュ（腕輪），ポプ（器），サンコ（お守り），ドレイ・チャ（ドマつぶしの棒ナイフ）を円のようにして並べる。⑤ナムゲ・ウォンチュクと④ソナム・トプゲイの間に①カチが入り，⑦⑥⑧③⑤①④②と円形になってナムケ・チェニが始まる（写真6）。⑧ナムゲ・ドルジは参加しないので，品物は本人の前に置いたままである（写真左から3番目）。

- ③アム・ペムが棒をもって指そうとするが，①カチに棒を渡し，①カチが「ナムコ～」と歌いながら皆と唱和しつつ，品物をポプ（器）から時計回りに指し始め，チャカ（ドマ入れ：③アム・ペム）に当たる。③アム・ペムの前にチャカを置く。ナムコを繰り返すこのような歌詞は初めて聴かれた。

Namko namko la namko 緑，緑，緑
 Thencho lhaye la namko テンチョ・ハ（天国の神）の緑
 Lhaye wongpo gyetse 天国にいる神様
 Namko zipa joen sho この緑を見に来てください
 解釈例：私は誰と緑があるか，神様仏様教えてください。

- ①が歌い皆歌う。②ティミ（石灰入れ）から指し始めドプチュ（腕輪：②ウゲン）に当たる。先のチャカ（ドマ入れ：③アム・ペム）とともに③アム・ペムの前に置いてペアにする。

Namko namko la namko 緑，緑，緑
 Barcho tshen gi la namko バルチョ・ツェン（天地の間の神）の緑
 Tsengi yo ma gyetse ツェンの守り神たち
 Namko zipa joen sho この緑を見に来てください

- ①が歌い皆歌う。ポプ（器）から指し始め，サンコ（お守り：⑥ピンツォ）に当たる。それを⑥ピンツォの前へ置く。

Namko namko la namko 緑，緑，緑
 Wochu lue ye la namko ウォチュ・ルー（wochu地面の下，lue神々）の緑
 Lue ye tsona rinche ルーのツォナ・リンチェ（国王の名前）
 Namko zipa la joen sho この緑を見に来てください

- ①が歌い皆歌う。ドレイ・チャ（ドマつぶしの棒ナイフ）から指し始め（反時計まわりになる）ポプ（器：⑦ハプ・ツェリン）に当たる。先のサンコ（お守り：⑥ピンツォ）とともに⑥ピンツォの前へ置いてペアにする。

Namko namko la namko 緑，緑，緑
 Yuezha tharm mi la namko ユイザ・タム（村の中）の緑
 Ma da yap yo ni ku お母さんとお父さんの二人
 Namko zipa joen sho この緑を見に来てください

5. ①が歌い皆歌う。ドレイ・チャ（ドマつぶしの棒ナイフ）から指し始め、ドレイ・チャ（ドマつぶしの棒ナイフ：⑤ナムゲ・ウォンチュク）に当たる。残ったティミ（石灰入れ：④ソナム・トプゲイ）とペアにし、④ソナム・トプゲイの前に置く。

Namko namko la namko	縁, 縁, 縁
Dzong che thrami la namko	ゾンの中の縁
Dzong gi wangche penpo	ゾンの一番偉い人が
Namko zipa joen sho	この縁を見に来てください

このようにして、ナムケ・チェニによるペアの決定は、以下の結果となった。

- ・チャカ（ドマ入れ）とドプチュ（腕輪）：③アム・ペムと②ウゲン
- ・サンコ（お守り）とポブ（器）：⑥ピンツォと⑦ハブ・ツェリン
- ・ドレイ・チャ（ドマつぶしの棒ナイフ）とチャカ・ティミ（石灰入れ）：⑤ナムゲ・ウォンチュクと④ソナム・トプゲイ

ナムケ・チェニ終了後に参加者から聞き取りを行った。以下は、その内容である。

- ・ナムコ namko とはナムケ namkey（縁）のこと。ハではこのように発音する。
- ・昔は男3人、女3人という（男女同数の）やり方だったが今日は男が多い（のでこうなった）。男同士ではあまりせずに、男女の間に遊んでいた。男3人女3人でナムケ（縁）があるかどうかとか、互いに合うかどうか、好きかどうか（占う）。（占いは）当たることもある。（縁が合うと）一緒にあんず茸探しに行こうか、松茸取りに行こうか、などと言っていた。今日は男が多かったが、当たったなと思ったのは⑥ピンツォと⑦ハブ・ツェリンの二人だ。この二人は子どもの頃からとても仲の良い友達で、今日もこれで縁はあったので良かった。ナムケ（縁）があった。
- ・最初はテンチョ・ハ（天の神、仏様）のナムケ、次はバルチョ・ツェン（天地の間）にある（神）、ツェンは守り神とか（の意）。ウォンチュ・ルーは地下の神様で、この順で歌う。ユイザ・タムは村の中の（縁）。ナムケやるのはそれだけ。
- ・次はツェニをやる。今日のモタブニ、ナムケ、ツェニのこの順番は、必ずこうするというわけではない。（モタブニで）一人がお坊さんになって出て、残りの人でナムケ（ペア）になる。お坊さんになったらそこに縁がないので参加できないから6人でやった。（ナムケで占うのは）親戚の関係もあるし、たまに恋愛の関係もある。

4.3 ツァンモ・ツェニ (tsangmo cheyni)

品物を片付け、2つのグループに分かれる。ツェニは、グループに分かれた歌の掛け合いによる闘いなので、写真のように対峙して座る（写真7）。便宜上、③⑧⑥⑦をAグループ、①⑤④②をBグループとする。



写真7 ツァンモ・ツェニ

Bグループ	Aグループ
ウゲン②	⑦ハブ・ツェリン
ソナム・トプゲイ④	⑥ピンツォ
ナムゲ・ウォンチュク⑤	⑧ナムゲ・ドルジ
カチ①	③アム・ペム

以下、歌われた順に歌詞と日本語訳、解釈例を示す。なお、ダ・ルー、ニェン・ルー等の歌の種類や、多くの場合歌は身体的な所作も伴うので、その様子の特徴的な部分も合わせて記している。以下、実際の様子を記す。

1. ⑥⑦を中心にAグループから歌い出す。Bグループも歌っている。モタプニ3と同じ歌詞である。

Choe ni jamtshoo la phaka	あなたは海の向こうにいます
Nga ni jamshoo la tsuka	私は海のこちらにいます
Leydo mi lam yoe na	もしご縁があるのなら
Jamtshoo la bu la zom sho	海の真ん中で会いましょう

- ・四行目のJamtshooで⑧⑥が右手人差し指を回しshoで床を指し「海の真ん中」を表現する。

2. Bグループが歌い返す。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Kham bu khalu la zhim ba	桃の実食べてもおいしい
Meto mila la ze ba	花を見てもきれい
Kham shing gi tsa wa	その桃の木の下に
Zha chi ney ru gaway	一泊とまってもいいなあ

解釈例：あなたはとてもきれいで、心も素晴らしい。あなたとずっと一緒にいたいなあ。

- ・最期gawayで人差し指を相手に向けて指す。

3. Aグループが歌い返す。モタプニ6を变形創作した歌詞と思われる。

Choe ni lamey la jabley	あなたは峠の向こう側
Dharka jong jong la beydo	峠の向こう側から白い布 (dharka) 振ってる
Nga di lamey dong ley	私は峠のこちら側
Tshong do la shey shey bey do	こちら側に笑顔で待っています

解釈例：あなたが向こうからこちらに来るのを楽しみにしているのがわかる。私もあなたと会いたい。喜んで待ってる。

- ・四行目Tshongで手を振り、最後doで床を指す。

4. Bグループが歌い返す。初めて聴く歌詞である。

Thoye labtsa la ten lu	峠の上に
Lhabtsa dumra la thong bey	峠のところに庭が見えた
Rado haley meto	好きなハレイ・メト (haley meto) の花
Nyamdo ley gi koe chi lo	そこに縁があって会いました

解釈例：庭 (dumra) には花がたくさんあるけど、ハレイ・メトは峠では咲かない。そこにあると思ったけどなかった。ずっと会いたいと思った人に、たまたま会えた。とてもご縁があると思う。

- ・後半二行、何度も人差し指で相手を指しchi loで両手人差し指を合わせる。

5. ③が歌い、Aグループ皆が歌う。サムテガン (2015) ケルキ (2016) ダガナ (2017) でも聴かれた歌詞である。

Choe ni sergi la bumpa	あなたは金のブンパ (孔雀の羽の入った金の入れ物, 仏具)
Nga ni maja la dongdru	私は孔雀の羽
Leyda milam yoe na	ご縁があったら
Choe sham thramo zom gey	仏間で会いましょう

- ・途中何度も右の手の平を上に向け、相手に差し出ししながら、最期zom geyでは、右手で相手を指す。

6. ⑤が歌い、Bグループ皆が歌う。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Pha ri pang gi la lo la	離れた平らな所に
Shawa yang dro la mang dro	鹿が上にいたり下にいたり
Yang dro tsa yang ma za	上にいっても草も食べない
Ma dro chu yang mi thung	下にいっても水も飲まない

解釈例：あなたに興味ありません。

- ・ダ・ルーになる。途中、何度も右手を相手に差し出ししながら、最期mi thungでは右手で相手を指す。

7. ④が歌い、Aグループ皆が歌う。初めて聴く歌詞である。

Phari pang sho la yue bi	チベット (phari) に平地があるというは
Minam khuen gi la shey bey	皆が知っている

Pang lu sersho yoe bue その平地のところに花 (sersho) があるのは
Dori la mem ba wa shey 今日知りました

解釈例: あなたがきれいな人だということは何回も聞いて知っていた。でも、心もやさしい素晴らしい人だということは、今日のはじめて知った。

・ニエン・ルーに戻る。最後 shey で、右手で相手を指す。

8. ①が歌い、Bグループ皆が歌う。一行目はよく聴くがそれ以後は初めて聴く歌詞である。

Phari pang gi la loe lu 離れた平らな所
Ki ni gandre la ki wong なんでもできます
Ki tse thudi ma za でてくるもの全部食べないで
Due gi rato thoen wong lo 毒の根っこもありますよ

解釈例: 人と出会う時、いい人だなとか、あの人は優しいとか、いろいろな人がたくさんいます。心優しいふりをしているかもしれません。言っていること全部信用しないで。そういう人を全て信用するかどうか、しっかりと考えて。信用すると騙されますよ。

・ダ・ルー。歌いながら右手人差し指でなんでも相手を指し、最後 wong lo の時、右手で相手を平手打ちするようなしぐさをする。

9. ⑥が歌い、Aグループ皆が歌う。モタブニ5と同じ歌詞である。

Lam sum zom bi la bu lu 三つの分かれ道の間 (真ん中の道) に
Ser gi khawa la dap zha yoe 金の柱が立っています
Di la dho mi yoe na それに触ろうとする人がいたら
Rinchen la soda drey wong 大事な命がなくなりますよ

解釈例: 好きな人がいます。あなたがその人に触ったり話したりしたら、殺すわよ。

・ダ・ルー。一行目 bu lu の時右手で相手を指す。二行目 ser gi の時右手人差し指で床を指す。四行目 rinchen でも右手で相手を指す。wong は強く発音し、右手人差し指で床をするどく指す。動きが激しい。

10. ①が歌い、Bグループ皆が歌う。よく似た歌詞が糸永 (1986)、タンシジ (2013) で聴かれた。

Choeten mija la guja 仏塔をつくるどころたくさんあるのに
Dra gi key pa la jadi 岩にくっつけてつくっちゃっている
Milam dra gi koe di 道を岩が邪魔して (ブロックして)
Kora la chap go madi lo 回ることができません

解釈例: ずっとあなたと付き合いたいと思っています。でも、あなたには彼がいるし、結婚している。それで付き合うことができません。(岩を相手のパートナーに見立てる。前の歌詞からつないでいる。)

・Guja, Dra, jadi, Milam では右手で払うしぐさ、Kora で右人差し指をくるくるさせる。madi lo では右手人差し指で払うしぐさをする。最後の発音も強く歌われる。

11. ⑦が歌い、皆歌う。Aグループ。初めて聴く歌詞である。

Yue chi ngo go la noe di トルコ石を買いいたいと思って
Yue tey zam pa la lhoe sey トルコ石を売っている場所にいった
Rong gi lam do khencho 私の (lam お坊さん, khencho 仏様) 偉いお坊さんと仏様に
Thucha la zhey pa jongo sho lo お供え (thucha) するからもらいにくいて

解釈例: あなたのことがとても好きで、トルコ石のように高価なものをもってあなたのところへきました。それを取りに来てください。あなたにトルコ石あげたくてあなたのところにきました。会いにこなかったから、トルコ石を仏様にお供えするわ。

・ニエン・ルー。

12. ①が歌い、皆歌う。Bグループ。他地域でも似た歌詞が聴かれた。

Sha chi ngo go la noe di 肉を買いいたいと思って
Sha go di lu la song di 肉屋にいった
Sha do tsi lu mi pa 肉と油は無いし
Go la ham pa tho so lo 値段が高すぎる

解釈例：あなたに会いたくて会いに来た。とてもいい人だと思ったけど、良くなかった。美人じゃないし、いばっているのだから必要ないわ。

・ダ・ルー。一行目は前の歌詞に対応させたとされる。

13. ③が歌い、Aグループ皆が歌う。初めて聴く歌詞である。

Zham bu jazha la wo ley	ジャジャウオレイという帽子
Tsu mi mong bu la du ba	被りたいと思ってた
Jongto azha tsumi	ジョント村のおじさんが被ってる
Ser pu la ser ley khuen pey	金より少ない

解釈例：ダ・ルー。自分のことが好きだと言う人はたくさんいる。でも、今いる彼（旦那さん）のように素晴らしい人はいない。その人だけ。

・四行目 Ser pu では右手で相手を指す。①がハハハと笑う。

14. ④が歌い、途中から①が歌う。Bグループ。似た歌詞がツァンカ（2012）、ケルキ（2016）で聴かれた。

Nam lu tring chi la min na	空にひとつも雲がなかった
Geche nopdo la draway	(geche シルク) 青色のシルクに似ています
Rang lu dro chi min na	自分の好きな人いなかったら
Ridha chang chim la dra way	(redha 野生の chang chim ひとつの鹿) 野生の動物と同じです

解釈例：結婚してない、子どもいない人は、野生の動物みたい。

・ダ・ルー。歌の途中で⑧が笑出す。歌い終わると皆が笑う。

15. ③が歌い、皆歌う、Aグループ。初めて聴く歌詞である。

Da shing chi tshendey shing lu	糸杉の木 (tshendey shing)
Zego lenchi la sam	一気に登りたいなと思ったら
Geche pata gochu	シルクでできたゲチュ・パタ (geche pata) という高級なゴ
Hrey cha la gelwa mindu	破れてもいい

解釈例：自分の好きな人は結婚している。でも、その人が好きだったら付き合いたい。旦那さんから殴られても付き合いたい。私はあなたが大好きで、その人に相手がいても自分の親が止めても、皆が私を殴っても、私はあなたとつきあいますよ。

・ニエン・ルー。全体にやさしく歌う。最後の mindu では右手で払うしぐさをする。

16. ①が歌い、Bグループ皆が歌う。初めて聴く歌詞である。

Autra ring mey la thung mey	髪 (autra) は長いのも短いのもある
Cha chu mila la sey bey	目に見えてもよくない (落ち着かない)
Ring thung mar nyam tro gey	長くも短くもない同じ長さに髪をきいたら
Sem gi khoetha la tho bey lo	心から落ち着く

解釈例：あなたと私、たまに会ったり会わなかったりで落ち着かない。結婚して一緒に住んだら、互いに落ち着くでしょう。

・ニエン・ルー。四行目 sem gi で自分の胸をさし、tho bey lo では右手で払うしぐさをする。

17. ⑥が歌い、Aグループ皆が歌う。初めて聴く歌詞である。

Shing chen kam bi la loe ley	干した乾燥した木から
Lendap ja ae la mi ja	枝は出てこない
Ja ru song sing mi tup	出てきてもお香にも使えない
Ja ru la cha ba mi noe	私はその枝切りには行かない

解釈例：いらない。あなたがもともと悪い人だからいい人になれない。もしいい人になっても私の相手としては必要ない。

・ダ・ルー。二行目 Lendap, 三行目 Ja ru, mi tup, 四行目 Ja ru では右手で払うようなしぐさ、最後 mi noe では強く払うしぐさをする。笑って歌が止まる。話が入り、次の歌詞がなかなかでない。

18. ①が歌い、Bグループ皆が歌う。似た歌詞が糸永（1986）、ツァンカ（2012）、タンシジ（2013）で聴かれた。

Tapo iega la si si	馬 (iega sisi 雄の馬) が (丸い飾りがたくさんついた首飾りを)
--------------------	--

Thoe ye lamo la gayseng ちりんちりん (si si) 鳴らして
 Gelmu tsewa buthri 高い峠を越えていった
 Tari jiwa lu sey ブトゥリ (馬の名) というメスの馬
 馬小屋 (tari) に残された
 解釈例: 悲しい。自分の好きな人がどこか遠いところにいっちゃった。自分はここに残されて寂しい。

・チョ・ルー。

19. 前の歌の途中から③が歌い、Aグループ皆が歌う。似た歌詞がツァンカ (2012), タンシジ (2013), ケルキ (2016) で聴かれた。

To po chi lu la they so 馬はひとつの方向にいっちゃった
 Gap cha chi pang lue song 鞍がその辺に残っている
 Tapo mi bi gap cha 馬のない馬具
 Sem gi la du lu mindu lo 心からいりません

解釈例: あなたが行ってしまい、あなたからのお土産や指輪、私へのプレゼントが残っている。あなたがないので持っていても意味がない。

・チョ・ルー。

20. ①が歌い、Bグループ皆が歌う。初めて聴く歌詞である。

Jamo in ru ga way 鳥だったらよかったな
 Nam do ja ja la phu way (鳥は) とてもいばって飛んでいた
 Nya mo shadro mi pa 魚には羽根がないから
 Jamtsho ting lu tue song lo 海の奥 (jamtsho ting) にいた

解釈例: あなただっただけいいなと思っている。元気で楽しく遊んでいるあなた。私は、年を取っているし、力もなく、何もできない。あなたのように遊ばず、ずっと家に残されたまま。

・チョ・ルー。Nam do, Nya mo で右手人差し指で上を指す。最後 song lo では右手で払うしぐさをする。

21. 前の歌の途中で③が歌いだし、Aグループ皆が歌う。糸永 (1986), サムテガン (2015), ツェザ (2017) でも聴かれた歌詞である。

Tsu na sergi la zoko あれば金の指輪
 Ma tsun nyengi la zoko なかったら銀の指輪
 Tey nye ra gi zoko よくない鉄の指輪
 Dha la gyoe pa mindu lo 私はいらぬ

解釈例: できればすごく豊かなお金持ちの人とか、すごく豊かな人と結婚したい。そうでなければこそこの人と結婚したい。でも、あなたみたいなお金もない、悪い (tey nye) 人とは付き合いたくない。

・ダ・ルー。

22. 一度止まるが④が歌い出し、Bグループの④⑤で歌う。初めて聴く歌詞である。

Do ley wo gi la nya mo 石の下にいる魚 (nya mo)
 Nyamo do drep la za di 魚がこけ (drep) を食べている
 Do drey za di wa chin こけを食べることができないなら
 Ma shin dong na ti gey lo 土に埋めちゃうよ

解釈例: 私はその人のことを大好きで、なんでもプレゼントした。家つくってあげたり、野菜やお米を買ってあげたりした。それでも家に来なかったり、外に遊びに行ったりしたら (こけがあるのに違う所へ行こうとしたりしたら) 殺しますよ。

・ダ・ルー。最後 gey lo では右手で床たたく。

23. ⑦が歌い、Aグループの⑥⑦で歌う。他地域でも似た歌詞がよく聴かれた。

Karyul kersa la chigi 白いお椀
 Drukri jado la chopgey 竜の模様が百以上描いてある
 Karyul cha ru cha gey 白いお椀割れてもいい
 Druk ri la yel sa mindu lo 竜の模様は消えない

解釈例：あなたはとても素晴らしい人。周囲の人がどんなにあなたのことを悪い人だと言っても（お椀がわれても）、あなたの素晴らしいところはずっと変わらない。

・ニエン・ルー。

24. ④が歌い、Bグループの④⑤で歌う。初めて聴く歌詞である。

Khenpa shing gi la ten ley	よもぎ (khenpa) の木が
Ta kam po go la noe	自ら樹液 (ta kam) が出るといったら
Tsen dey dong bi lo ju	大きな糸杉の木から
Lap lo zha lo la mindu	話ができません

解釈例：あなたは何もわからない。全然経験がないのにいろんなこと知っているとかできるとか言う。私にとっては話にもならない（糸杉=大きくて樹液が沢山出る）。

・ダ・ルー。四行目 Lap lo, mindu では右手で抑制（ストップ、できない）するしぐさ。

25. ③が歌い、Aグループ皆が歌う。他地域でも聴いた歌詞である。ツェニ2の別バージョンである。

Kham bu khalu la zhim ba	桃の実食べてもおいしい
Meto mila zey ba	花を見てもきれい
Kham shing gi tsa wa	その桃の木の下
Nga gom chi la chap ru gaway	その下で瞑想したい

・ニエン・ルー。やさしくうたう、しぐさなし。

26. ⑤が歌い、皆歌う。Bグループ。他地域でも似た歌詞がよく聴かれた。

Phari pang gi la lo ley	遠い平らな所で
Gu chi pup go la noe di	テント (gu chi) をつくりたいとおもった
Gung shi dako doko	テントのはりがまっすぐじゃない
Gu chi la pup go la ma dey lo	テントつくることができない

解釈例：あなたはとても美しく良い人、付き合いたくてあなたのところへきた。でも実際はそんなにきれいなじゃないし、良い人でもなかった。だから付き合わない。

・ダ・ルー。

27. ③が歌い、皆歌う。Aグループ。ケルキ（2016）でも聴かれた歌詞である。

Chu chi la kha ley la wo pa	湧き水を上澄みだけ汲むと
Hong ma ting ley la long way	土よごれ (hong ma) が下からあがってくる
Hong ma long ru long gey	土よごれで全部汚れてもいい
Lhangjo mi pa la woni	汚れでも全ての水を汲みたい

解釈例：あなたは私が何やっても嫉妬する、見張ってもいる。私の言ってることやってることに文句いったり悪口いったりしても、私がやること思ったことがどのような問題があってもやりますよ。

・ダ・ルー。

28. 一度歌が止まるが、④が一人で歌出す。Bグループ。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Choe ni radu la dra dum	あなたは布のはぎれ
Nga ni geche dra dum	私はシルクのはぎれ
Tsem di taw do lu mo	一緒に縫った
Ja ja draw chi la mindu lo	あまり合わない

解釈例：あなたはただの人、貧しい所で育った。私は豊かな家で育った。一緒にいたい、付き合いたいけれども合わない。

・ダ・ルー。三行目 Tsem di taw do で二人差し指を合わすしぐさ。

29. ③が歌い、Aグループの皆で歌う。初めて聴く歌詞である。

Kani kasha la ka bey	白い木綿の布
Jam ni gechey la jam bey	やわらかいのはシルクの布
Menchu bumo sem kha	女の私の心は
Jadi ngo tra chap gey	青い布 (jadi ngo tra) を選ぶ

解釈例：あの人もとても美人で優しい。でも、私の心は自分の今のパートナーのことしか考えない。

・ダ・ルー。

30. ⑤が歌い、途中から①が加わる。Bグループ。初めて聴く歌詞である。

Doma ja za la Wangchuk	ジャザ・ウォンチュクのドマ
Ja shi kap dey la ka gey	木を切るように切りたい
Pani yulthru lhamo	ユチュル・ハモという葉っぱ
Shomda pey dey pey gey	げしげしの葉 (shamda) ちぎります

解釈例：ドマは切るのもそんなに大変じゃないし、葉っぱちぎるのも大変じゃない。あなたもそれと同じように殺すのも簡単。殴るのも切るのも簡単。

・ダ・ルー。最後のところで、⑧が何かをちぎるような所作をする。皆笑う。

31. ③が歌い、Aグループの皆が歌う。初めて聴く歌詞である。ツェニ30の替え歌か。

Doma ja za la Wangchuk	ジャザ・ウォンチュクのドマ
Ja shi kap dey la ka ba	木を切るように切りたい
Doma boto dri song	ドマは丸いから山から転がって行っちゃった
Kap kap draw ro mindu lo si	どうやって切りますか

解釈例：あなたは私を殺したいと思っているけど、私はここからいなくなるよ。どうやって殺すの。

・ダ・ルー。四行目 kap で④が笑い、一瞬歌えない。

32. ①が歌い、Bグループの皆が歌う。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Denchu khaga la dru zhi	四角の座布団
Doe na nga ro la mashow	私一人でも足りない
Tse nyen leythro yoe na	もしが縁があったら
Choe do nga be doe gey	あなたと私で座りましょう

解釈例：今住んでいる家は自分一人でも狭いけど、それでももしあなたと私の縁があるのなら、一緒に住みましょう。

・ニエン・ルー。四行目 Choe do で二人差し指を合わせるしぐさをする。

33. ③が歌い、Aグループの皆が歌う。他地域でもよく聴いた歌詞である。

Doma khamdo la chi gi	ドマが一つしかない
Za na nga ra la wa lang	私でも足りない
Za na choe ya za sho	食べたければ
Choe do la nga bey zo gey	あなたと私で食べましょう

解釈例：私一人でも足りないですけど、でもあなたも食べたければ一緒に分け合って食べましょう。

・ニエン・ルー。

34. ①が歌い、Bグループの皆が歌う。

Choe lu cha chi la mindu	あなたはペア（左の片方）がない
Nga lu ya chi la mindu	私も同じくペア（右の片方）がない
Cha mey ya mey ni ku	（右の靴と左の靴、ペアだと cha ya）ペアない二人は
Dam bi la choe la dro gey	修行に行きましょう

解釈例：あなたも私も相手がいない。若ければ一緒になるかも知れませんが、年老いた今では共に修行することにしましょう。

・ニエン・ルー。最後 gey で合掌するしぐさをし、笑って終わる。

このように、ツェニでは、ダ・ルーやニエン・ルー、さらにチョ・ルーを織り交ぜながら進み、最後にはニエン・ルーとなり、どちらのグループが勝ったとかではなく、皆でお祈りしに行きましょうとなって終了した。

5 ツァンモの周辺及びツァンモについての聞き取り

ツァンモを終了した後、ハにしかない古い歌と踊りであるチュンドウ・コゼ (*Chungdue zhey* つまり *Bonghur zhey* のことか。zhey は各地にみられる歌に合わせた踊り) を収録することができた。これは、毎年

ハのボンコウ (*bonghur*) という祭りでやっているもので、ダマル (*damaru* 法具。振り鼓) を振り、リズムを取りながら右回りに踊る。歌は①が音頭取りとなる音頭一同形式のものである。この後、以下の聞き取りを行った。

5.1 チュンドウ・コゼ (*Chungdue zhey*), アプ・ウォン・ドゥゲ (*Ap wang dru ju*) とチュンドウについて (⑧の話)

チュンドウ・コゼの歌の内容は、ここが一番大事な守り神のチュンドウについてのものだ。チュンドウはインドで生まれ、チベットのチュムに行きチュムの守り神になった。そこからハに来た。チュムからハにどうやってきたのかその順番について歌っている。どういうルートできたのか、最後に白寺ラカン・カルポとか…。例えば、ヤチェドルザムという石でできた大切な橋があって、その長さがどのくらいあるかとアプ・ウォン・ドゥゲが聞いたら、チュンドウは「他の人が歩いたら3日間かかるけど、私だったら3歩で渡ることができる」と答えた、といった歌がある。

アプ・ウォン・ドゥゲという人は、有名なおじさんで、すごく頭のいい人。チュンドウととても仲が良かった。その人が田んぼを持っていた。川から水を引きたいけれどもできなかった。それでチュンドウに「あなた下へ行く川の水を上に戻してください。私は上に行った水を上から下に戻しますから」とお願いした。チュンドウはその意味がちょっとわからなかったけれど、すごいパワーを持っているので、普通は水を下から上に流すことができないのに、それをやってのけた。アプ・ウォン・ドゥゲは頭が良かったので、上から下へ水を流すのは自分がやります、と言った。チュンドウが頑張って下から上へ水を戻してくれたおかげで、アプ・ウォン・ドゥゲの田んぼに水が入った。この下から上にいく川がティンブーに行く途中にある。

チュンドウと仲がいいアプ・ウォン・ドゥゲの話がたくさんある。例えば、土地を売る話。真ん中にとっても大きな石がある土地について、「私の土地の広さと大きさは、上からみても下まで見えないし、下から見ても上まで見えない位です。それを売りたい」と言った。言われた人は土地を見ないで買ってしまった。上から見ても下が見えないというのは、間に大きな石があったからなのに。土地を売った後、今度はヤギを連れて石の上に立って、「私は土地は売ったけど、石はまだ売ってない」と言った。そのような話がたくさんある。

チュンドウとアプ・ウォン・ドゥゲはとても仲が良かったので、アプ・ウォン・ドゥゲがチュンドウに「これまで私とあなたと仲が良く、あなたのやさしい顔をずっと見てきた。ここで一回あなたの怖い顔が見たい」とお願いした。するとチュンドウは「私の怖い顔を見たらあなたは大変なことになる。私の顔を見ることできないでしょう」と答えた。でも彼は「あなたとは友達だし、どうしても見たい、大丈夫ですよ」と言って頼んだ。そしたら、チュンドウは、「だったら明日、自分の家の屋根で待っていてください、私が出てきます」と言った。次の日屋根の上にいると、近くの木から大きな蛇が出てきた。とてもびっくりして怖くて屋根から落ちて死んじゃった。それが、アプ・ウォン・ドゥゲの最後です。

アプ・ウォン・ドゥゲはブータンの頓智話、昔話としてさまざまな話が残されている ('1.3.1.2. A Humorous Story Ap Wang Drugye'. Jagar Dorji(ed.)2015:24-25)。

5.2 ツァンモについて (①⑥⑦の話, 伊は伊野, 権は権藤, 黒は黒田, Peはペマ・ウォンチュク)

伊: 何年ぶりにツァンモをしましたか。

⑦: 40年位していなかった。昔はヤク飼いをしていた。

⑥: ヤク飼いの時、ザチュム (*zachum* ピクニック) に行った時、男と女のグループつくって、ナムケ・チェニをした。内緒の男女のカップルがいると、大抵その二人はペアになった。そういうふうに通っていた。

伊: ヤクだと山の方へいくわけですが、どこでしたか。

⑥: たまに夜ということもあったが大抵は昼間、ヤクなどを放し飼いにしてツァンモをしたり、デゴ (*dego* 石ゲーム) で遊んだりした。こういう文化は全部なくなっている。昔は普請の土壁をつくるときも、女の人の歩いたりするとパキ (*paki* 土搗歌) をしながら歌いかけたり、仲良くなったり、喧嘩したり、とても楽しかった。今は全くなくなった。

伊: パキで掛け合いしたということですが、家ですることはありましたか。

⑦: ロチェ (*rochoe* 法要) の時もあるし、ザチュムは男だけのグループもあったりして、その時は一つの家に集まっていた。女の人のグループで集まることもある。

伊：今日はモタブニ⇒ナムケ・チェニ⇒ツェニの流れだったが、普段はどんなかたちで遊んだのですか。

⑥：昔もだいたいモタブニやナムケのあとにツェニをやっていた。今の人たちは全然できない。

伊：今日は最後に終わりの歌あったが、ツェニの時は、必ずそうするのですか。それともそれをしないで勝ち負けを決めることがありますか。

⑥：今日は最後にお坊さん（になる、修行にいきましょうという歌）になったが、それだけでなく、たまにツァンモでずっと戦ったり、ツァンモの後にロゼ（*lozey*口頭で相手と詩を交し合う口承文芸）をして、最後に喧嘩になって口もきかないこともあったりした。最初はニエン・ルーで始まる。しかしだんだんダ・ルーになって、気が短い人は最後にすごく怒って終わることもあった。

伊：ロゼもよくしたのですか。

⑥：カチさんはロゼがよくできる。ロゼに詳しい人から聞いて私に教えて、たくさんの歌詞を覚えて、それからみんなのところ行ってパキの時にやった。二人でロゼやって、「オッケー、それだったらあなたは女の人のグループつくってきて。私は男のグループつくるから、またやりましょう」というふうには、また続けてロゼの戦いやったりしていた。

伊：ツァンモやったり、ロゼやったりいろいろまざってやっていたのですか。

⑥：それが楽しみ、楽しみはそれしかなかった。

伊：ツァンモで結婚した人はいますか。

⑥：昔はロゼで、好きな人がいたらその人に自分をどれくらい好きか、今の携帯のようにして返事もらって仲良くなった。私のことが好きなら山こえた場所を決めて、「そこで待っているからそこにきてください」とロゼで返した。

伊：ロゼでやったのですか、ツァンモではしなかったのですか。

⑥：それでもあった。ナムケ・チェニをして、自分がその人のこと好きなのに相手が分かっていない時、ツァンモで縁があるから「もっと考えなさい。一緒になりましょう」と、そうやって誘って結婚した。

伊：ツァンモの時のポチャやモチャ（*pocha*男性の持ち物、*mocha*女性の持ち物）は、必ずそこにいる人と対応させているのか、そこにいない人の品物として使うこともありますか。

⑥：たまにそういうこともあった。友達の誰かに好きな人がいて、その人がいない時。その人との縁があるかをみたい場合、そこにいない人の品物を入れて本当に縁があるかどうかをみた。ナムケ・チェニで縁があると出たので誘ったほうがいいですよ、などというふうにしていた。

権：占いみたいに。

伊：チェニは必ず男と女を占うのですか。

⑥：ほとんど男と女の縁だ。ロゼでもツァンモでも。

伊：ツェニの時にツァンモのうまい人、歌詞をたくさん知っている人を仲間に引っ張ってこようとしていますか。

⑥：戦いのときは、最初詳しい人がグループに入っていないと、すぐに引っ張ってくる。「そこに座りなさい」といって引っ張る。

伊：モタブニのやり方だが、枝を持つ人は決まっているのですか。

⑥：歌う人がやらなくてはならない。

伊：そうすると、誰が歌うのか決まっているのですか。

⑦⑥：ナムケ・チェニは、だいたいそうだ。誰か知っている人がやることになる。以前TVでロゼの競争があった。ロゼをできる人のコンペティションがあって、その時パロにできる人がいて、オーガナイズする人がパロから人を連れてきてハの人とやりましょうということになった。パロの人は、ハの人たちとは皆親戚で仲がいいのでやりたくなかった。その時、ドチュ・ラ峠（*Dochula*）の奥によくロゼでTV出ているおばちゃんともう一人の人をハに連れてきて、ハの人と戦いたいと…。そこに一人白髪のおばちゃんがいた。その人ともう一人、二人とおじさんとで戦った。ロゼでずっと戦っているうちにすごく怒ってしまい、おじさんがきついことを言い、向こうからもハの場所が良くないとか山が良くないとかひどいこと悪口をたくさん言った。おじさんがその返事でもっときついこといったらおばちゃんが怒ってしまい、おじさんの襟をつかんでボタンが全部とれてしまい喧嘩になった。それでオーガナイズした人も怒って、「なんでそういうことする、出ていけ」ということがあった。

伊：ナムケ・チェニのやり方について、最初に2人ペアを組むのですか。

⑥：昔からツァンモやるときはモタブニ、さっき言ったように好きな人がそこにいなくてもモノを入れてやる。モタブニで占いをやって縁があれば、一緒になるのだったら、その後もう一回ナムケ・チェニをやって、そこでも当たれば二人は結婚したほうがいい、一緒に住んだほうがいいとなる。さっきやっていたペアにすることもある。

伊：必ず最初にペアをつくるのですか。

黒：今日はナムケ・チェニでどんどんペアつくっていた。

⑦⑥：昔は最初に皆が集まって、踊って、それがずっと続いて、その後は疲れて、朝まで踊ったら疲れるから、ツァンモやりましょうということになった。持っている品物全部出して、ツァンモやっていた。

伊：ナムケ・チェニで人数が奇数の場合はどうしたのですか。6人、8人でなく7人や9の場合。

⑦⑥：人数は7人とか9人の奇数が普通だ。最初にモタブニやって、一人はチョベニというお坊さんになる。残りペアをつくる。先にモタブニで決める、今日はベルの人(⑧)。昔は自分がお坊さんにならないかとも心配していた。今はお坊さんでもいいけど、

伊：モタブニで最初にお坊さんを決めて、ナムケ・チェニは偶数にしてペアをつくる。品物は必ずポチャモチャに分けるのか。

⑥：特にポチャとかモチャとかはない。私の場合、好きな人がいたとき、ナムケで占ってみてみたいな、と思っていたことがあったけど、そういう時に限ってお坊さんになってしまい残念だった。その人のことを好きで好きで夜寝る時も寝られなかったのに。

伊：先ほどのロゼの話では、どんどん新しい歌、悪口をつくっていたけれども、ツァンモも新しい歌を即興でつくるのですか。

⑦⑥：つくる。前からたくさん詩を知っていて、自分の頭ですぐつくる。

伊：昔からの歌詞はどうやって覚えたのですか。

⑦：人がやっているのを聴きながらやりながら覚えた。

権：恋愛のことが多いが、何歳からツァンモでやりとりして遊んでいたのですか。

⑦⑥：12歳、13歳から。

伊：一人で放牧できる年齢と考えていいですか。

⑦：だいたい子どもの頃から、ヤク飼いできる時からやっていた。覚えるのはツァンモもロゼも歌をかけられた瞬間に覚える。相手と互いにやりながら覚える。

伊：大人とはやらないのですか。

⑦：子どもは子ども同士、大人は大人同士でもやっていた。山に行く途中、馬をつれていった時、途中皆同じ所、木の下などでキャンプをする。その時にも詳しい人がいたら習った。教えてくださいと言って。

伊：大人も子どもも一緒になってしたこと多かったですか。

⑥：それもあつた。

伊：今日はツァンモのメロディーは一種だったが、他のメロディーで遊んだこともありますか。

⑥：ここでは1つ(旋律A)だけ(と答えた後それを聞いていた①がバロヤブナカでも聞かれたブナカの旋律Bに相当するメロディーを歌い出したので⑥も唱和する)。3つある。(といってブナカの旋律Cに相当するメロディーを①等とともに歌う。次に①が再度歌うがこれもブナカの旋律Cと類似のもの。)(伊野ほか2014)

伊：他のメロディーも歌っていたのですか、それとも今聴いたから歌えるということですか。

⑦：思い出した。入れたりしていた。今日やればよかった。

①：それら(のメロディー)を入れたりして歌った。

①：(ショーレモ *sho ley mo* を歌う)。これはツァンモにならない、歌詞はツァンモと同じだけど、「ショーレモ歌いましょう」ということになる。(再び、ショーレモを違う歌詞で歌う)。ツァンモと似ててこちらから掛けるとあちらから返ってくる。

伊：掛け合いがあるということですね。いつするのですか。

①：ツァンモやって疲れて、朝まで遊んでやることがない時など、「ショーレモやりましょう」となる。

伊：ツァンモとショーレモ何が違うのですか。黒田：「ショーレモ」とつくところですか。

①：ショーレモは「たたかう」ことが多い。ツェニのように戦うこともあるし、互いに「好きです」とか、返事もったりすることもある。

伊：ツェンモとショーレモのちがいは何ですか。

①：メロディーが違う。歌詞は同じ（ツァンモでよく歌われる歌詞 *Choe ni jamtsho la phaka* でも歌える）。

⑥：（*Choe ni jamtsho la phaka* の歌詞でショーレモを歌う。）

①：（ショーレモを歌う）「ショーレモ」と入れなければならない点、ツァンモと似ているがそこだけ違う。

伊：今ショーレモで戦いがあるとうかがいましたが、ショーレモで占いもしたのですか。

⑥：占いはない。

①：お酒飲むときとか、相手の人のこと好きじゃなかったらショーレモで歌詞つくって一緒に集まったときに侮辱したりする。

伊：じゃ、飲んでいるときにショーレモがはじまったりするということですか。

⑥：そう。

①：アーチェリーやって遊んで、その後紅茶やお酒を飲んで、自分より相手のアーチェリーがうまかったら、それで何かいいたいと思う、その時にもショーレモやる。

伊：その時に歌詞をつくって伝えるのですね。

①：つくってやる。すごい綺麗な人だったらそれを褒めるショーレモやったりする。

伊：相手から返事が返ってくることもあるのですか。

⑥①：返事は必ず返ってくる。

①：相手を好きだったら、ツァンモと同じでいいこと言ったらいい返事、侮辱したりきついことを言ったりしたら向こうからも同じように返ってくる。

伊：そうすると一対一が多いということですか。

⑥：そう。一対一が多い。

伊：ツァンモとショーレモは完全に違うものなのですか。

⑦⑥：メロディが違う。だいたい遊び方は同じだ。

①：ツェンモは、絶対皆で座ってやる。ショーレモは歩きながらでもいいし、仕事をしながらでもやることができる。

伊：アオサ (*ausa* 遠くから人が歩いて来るのを見て、呼びかける歌) と同じですか。

①：アオサと違って、草刈りやりながら、仕事の中でもやる。

伊：例えば親戚同士で草刈りをやっている時に誰かがショーレモをやるということですか。

①⑥：やっている。パロの田植えの時もやる。

権：ツァンモは仏教の歌詞のような定型があるけど、完全にその場でつくるのですか。

①：ツァンモと同じだ。同じ6音4行。あまり変わらない。

Pe：ちょっと相手に言いたい時にやる。(ツァンモのように) グループはつくらなくてもいい。

伊：ショーレモは、他の所でもやるのを聞いたことがありますか。

⑥：他でもあるかも。パロであるかも。(パキの節を歌う)

伊：掛け合いの習慣がいろいろあるということでしょうか。トンサでも聞いた。

Pe：（メラ村での調査で聴いたショーレモではなく一行ごと最後に *song ley song ley ya* がつく歌を歌う）

黒：メラでも聴いた（伊野ほか2015）

Pe⑥：（*song ley song ley ya* と歌うとそのメロディに⑥と①が唱和する）。

⑥：（同様にメロディを一部歌う。）東でもある。

①⑥：（再度同様のメロディを歌う。）

伊：（一行ごと最後に言葉が付される）モーヤタイプが混在してるようですね。

権：ラジオの「ツァンモの時間」は聴きますか。好きですか。

⑥：はい（うなづく）。

①：ラジオがいい。昔は聴いていた。

⑦：ナムゲ・ウォンチュクはジュンドラ (*Zhungdra* ゆっくりシラビックに歌われる民俗歌) についてとて

も詳しい、私はロゼやっているので負けるからやりたくない。ジュンドラだったらラジオを良く聴いていて、やりましょうとなる。

伊：最後に、他の地の人とツァンモをやったことはありますか。

①：やらない。

⑥：ロゼはやった。バキやるときにバキと一緒にアオサやった。ハには米がないのでハの人はパロに取りに行く。その辺りで歩いているおじさんたちで、お米が入っていない空のバック持っているハの人がいる。パロの人がハの人に「その辺で歩いているあなた。食べ物ないのでここにお米もらいにきたのですか」と歌う。そうすると返事があって、ハの人は怒って、「パロの人はつくことはできるけど、食べることはできないから、だから私達ハの人がお米とりにきました」などと言って戦った。ツァンモの場合はない。

伊：ありがとうございました。

6 全体考察

6.1 他地域との共通性と特徴

ハ県ダンチョ村では、ツァンモ・モタブニ、ツァンモ・ナムケ・チェニ、ツァンモ・ツェニといった三種の遊びが見られた。この三種が揃った遊び方は、2010年のパロ、2012年のプナカ県チャンイー村の調査でも確認されているが、「1 はじめに」で指摘したようなツァンモの遊び方の典型がハにおいても揃っていたことになる。

歌の旋律について、今回実際に歌われたのは、楽譜1の一種のみであった。この旋律は、これまでの調査の全ての地域で歌われており、全国的に広がるポピュラーなものである。ただ、5.2で明らかになったように、今回の参加者は他の旋律も知っており、「今日（その旋律で）やれば良かった」という声も聞かれた。

詩文については、*choe ni jamtsho la phaka*で始まる最もポピュラーなものをはじめ、全国的に歌われているものが多く採取された。これらは多少の歌詞の相違が見られるものもあるが、型としての詩文の性格やツァンモの即興性に鑑みれば当然のことである。こうした詩文の表現法や歌われる内容、用語の特徴については、すでに指摘されているところである（黒田2014）。ただ今回ナムケ・チェニで見られた*namko namko la namko*で始まる詩文についてはハで特徴的に採取されたものであり、これについては後述する。

ツァンモの経験について、このような形で行ったのは40年ぶりという声が聞かれた。これも他地域と同様、学校教育の近代化や産業構造の変化によりツァンモの機会が急速に消滅しつつある現状がうかがえる。今回の参加者の中には「息子は法要ロチェが嫌いだ。伝統的な祭のボンコウを守っていかねばならないと伝えたら、*What's bonghur?*と英語で返事が返ってきた」とか、「英語の*mommy*は、ゾンカ語では、母を殺すの意味になる。誕生日のケーキのろうそくの火を消し、名前の書いてあるケーキを切るのは、その人を殺すこと」と話してくれる人もいた。伝統に対する世代間の意識の違いや文化的な齟齬あるいは断絶による苦悩が垣間見られた。こうしたこともツァンモが行われなくなった要因として考えられる。

さて、ハのツァンモで着目したいのは、ナムケ・チェニの有り様である。*namkey*は「縁」、*cheni*は「合う」といった意味から、*namkey cheni*は「縁がある、人と人とが合う」といったこととなる（伊野、黒田2014）。これは品物を媒介としたペアの決定による予言や占いで、歌われた詩文の内容によってペアの相性を占っていくものである。ナムケ・チェニのこうした内容と形式は、ハでも他地域と同様であった。しかし、他地域がツァンモの様々な詩文の意味内容を解釈し、そこからペアとなった二人の縁を占っているのに対して、ハでは、テンチョ・ハなどの神に呼びかけ縁を伺う形で遊びが進行していた。具体的には、遊びは次の歌から始まっている。

Namko namko la namko	縁, 縁, 縁
Thencho lhaye la namko	テンチョ・ハ（天国の神）の縁
Lhaye wongpo gyetse	天国にいる神様
Namko zipa joen sho	この縁を見に来てください

ここでの*namko*は、*namkey*のことでハの言い回しである。まず4行の詩文中第一行では、*namko*が三度繰り返される。次に第二行でそれが天の神テンチョ・ハとの縁であることを明らかにする。続く第三・四行において、その神に対して人間同士の縁の占いを祈願していく。4.2で明らかのように、歌の最初で呼びかけ

るのは、天の神であるテンチョ・ハ (*Thencho lhaye*)、次に天地の中間(地)の神のバルチョ・ツェン (*Barcho tshen*)、そして、地下を支配するウォチュ・ルー (*Wochu lue*)と続く。歌によりこれらの神と結びつき、それを迎え入れ、その霊力によって人間同士の関係性を占っていくものである。この三神への信仰はブータンでは一般的で、例えば、執筆者の一人ベマ・ウォンチュクによると、アーチェリーで見事的を射た場合、テンチョ・ハ、バルチョ・ツェン、ウォチュ・ルーの順でお供えをするという。

八木によると、ブータンでは「天の神としてのラ、水の神あるいは地下の神としてのルー (*Klu*)、地上の神としてのサダク (*[Sa bdag]*) が自然界を支配する三神として知られ」ており、「ルーは、土地の守護神であり、その土地に家を建てる場合には、ルーに対する儀礼をきちんとおこなわないと、病気などの災難に見舞われる」(八木1990:70)という。同様のことは馬場も指摘しており、「ラ (*lha*) と称される家の神」や「地下に存在する神としてのルー (*Klu*)」がいて、「ラに対しては、各家ごとに、年に1度ヤン (*Yang*) 等と呼ばれる儀礼が行われ」ること、蛇のつがいであるルーに対して「新築の時、大きな石を土地からどけるが、石にはルーがいるので、怒らせないように、害を与えないようにルーを祀る」ことを紹介している(馬場1990:46)。

こうした信仰は「白色の神々 (*lha*) の住む天、樹神と岩神 (赤い *btsan*, あるいは黄色い *gnyan*) の住む地表、青色ないし黒色の水神 (*klu*) の住む地底」(R.A. スタン著, 山口他訳, 1971:220) といった世界観や、上部(空・天)の *lha*、中間(地)の *tshen*、下部(地下)の *yoklu* という神霊の考えがあり、*yoklu* の中でも蛇の姿をした湖底川底井戸底に住むとされる *lu* (地底水底大魔神ナーガの訳) (John Powers 1995:28) といったチベット文化圏における神霊の観念につながるものである。そして重要なのはこの観念が、ハのナムケ・チェニと照合できる点にある。

星は、ラサの歌合戦が農耕儀礼の祭日に限って盛大に行われることを指摘し、水を司る龍神 *klu* に対する供養としての歌と踊りの奉納について言及しているが、これはブータンの伝統音楽家、民族音楽研究者であるジグミ・ドゥツパ (*Jigme Drukpa*) の語る、ツァンモはルイ・チャバ (*lue chopa*) すなわち「歌の供物」であるという考えに通底するものである。このように、ツァンモと民間信仰との関係については、広くチベット文化圏からも捉えていく必要がある(星1980:12)(黒田2016:116)。

以上述べたハのナムケ・ツェニの有り様に対しては、いくつかの疑問が湧いてくる。

- ・他地域のナムケ・チェニではこれらの神は出てこない。このやり方がハに特有なものであるのか、調査不足なのか。
- ・土地の守護神チュンドゥをはじめとし、他の神や精霊に対する縁は何故問われないのか。
- ・今回の調査では、三つの神はナムケ・チェニだけに登場してくる。モタプニやツェニに登場しないのは、何故か。

などである。これらについては今後の調査を待ちたい。

6.2 ツァンモという行為の検討

6.2.1 ツァンモの類型から

これまでの調査において、ツァンモの多様な側面が見られた。ここで遊びのタイプから一旦整理しておきたい。

①モタプニ (*tsangmo motapni*)

・品物の持ち主を特定し、「占う人」を決め、その人が歌いながら木の棒で品物一つずつ指し示していき、歌の終わりで指された品物の持ち主に対して、歌詞の内容から予言や占いを行う。

②レトロ・ドムニ (*lathro domni*)

・品物の持ち主を特定し、「占う人」を決め、その人が特定の人物に対して歌い、その歌詞の内容から予言や占いを行う。トンサ県ツァンカ村で行われていた(伊野他2014)。

③ナムケ・チェニ (*tsangmo namkey cheni*)

・品物の持ち主を特定し、「占う人」を決め、その人が歌いながら木の棒で品物一つずつ指し示していき、指された品物の持ち主二人に対して、ペアの予言や占いを行う。またラヤでは、チャム・トニ (*chamu toni*: *chamu* は「もの」、*toni* は「やる」の意味) と呼ばれている(伊野他2019)。

④ツェニ

- ・二つのグループで相対し、歌を掛け合って闘う歌合戦である。ダ・ルー (*dra lue* 喧嘩の歌) やニェン・ルー (*niyen lue* 耳に心地好い歌) などの種類の歌を駆使する。メラではカプシュー (*khapsho*) といった同様の遊びがある (伊野他2015a)。

⑤恋の掛け合い

- ・二人で互いに歌を掛け合う。5.2にあるように、相手の恋の意志をこうしたツァンモによる掛け合いで確認したこともあるようである。ただ、「男女が二人だけでやってそれで結ばれたということは、あったかもしれないが、自分たちはこうしたあそびだけだった」(伊野他2014:88) という証言もあるように、こうしたケースがツァンモにおいて一般的であったかどうかはわからない。

⑥賭け事

- ・品物を並べ、棒で指しながら歌い、歌い止まったところの品物を自分のものにする。ダガナ県ケビサ郡ゴンカ村 (*Dagana Zongkhak Khebisa Gewog Ganhkha*) のソナム・チョデン (*Sonam Choden*) の話である。子どものころにこのようにして賭け遊びをしたという (伊野他2018:86)。

⑦まわりうた

- ・一人で歌いながら参加者の中で歌をまわす。自分の思いや人生観を吐露し共有する。トンサ県ツァンカ村で行われていた (伊野他2014)。

⑦詩文の自作

- ・個人がツァンモの歌詞をつくり、書き留めているものである。例えば、学校の書く活動の中で、個人が自作のツァンモを作り書き留めていたり (権藤他2015:32)、音楽家で3代国王の宮廷奉公人 (*boegarp*) の役職を務めたアプ・デンゴ *Ap Dengo* のように、自らのノートに多くのツァンモを書き留めていたりするケースが見受けられる。以下は、2019年のインタビューで本人による紹介された一節である。

Sha sho ri ye la tse ney	東の山の上から
Karsel dawa la shar jung	白いお月様が出てきます
Ma key ami la zhel rey	お母さんの顔を
Ye la khor khor la jay jung	心に思い出します

これらのうち、①モタブニ、③ナムケ・チェニ、④ツェニの形が一般的で、ブータンに色濃く残っている。近年のラジオ放送 (権藤他2015) や学校での取り組み (伊野他2016) を考えるとツェニを楽しむ人が多い。こうした事実から、ツァンモについて次の2点を指摘することができるのではないかと。

第一は、モタブニ、ナムケ・チェニに見られるように、「占う人」の小枝ツァン (*tsang*) による占いモ (*mo*) というツァンモの性格である。歌われる詩文によって生まれる霊性 (神性、仏性、あるいは真理) に対する畏敬、信仰がツァンモという行為の核心に思われる。実際のところ、モタブニやナムケ・チェニでは、品物を囲むようにして座り、「占う人」が歌いながら小枝で品物を順番に一つずつ指していくのであるが、歌の最後で小枝がどの品物を指し示すかは、「占う人」ではなく「神仏のみぞ知る」のであり、参加者の視線は畏敬が動かす小枝の先一点に集中する (写真5, 6)。ダガナ県ツェザ郡ツェザ村 (*Dagana Zongkhak Tseza Gewog Tseza*) の聞き取りでは、「ツァンモは『良く当たる占い』なので、結婚前の男女がやるものであり、年をとり家族や子どもがある現在、好きな人を思ったツァンモ占いは (嘘では) できない」という声が聞かれたが (伊野他2018:88)、歌われる詩文に対する畏敬がうかがえる。藤井知昭は、ツァンモが、「占い遊びの歌」であったり、「子供の健康な成長を仏に祈る」といった「一つの行為」を示す概念であったりすると指摘している (藤井1991:67)。これまでの調査では、前者の「占い遊び」は多く見られた一方で後者には出会っていないが、こうした行為の源には歌われる詩文に対して深い意味や真理を求めるブータンの人々の精神性が存在するものと考えられる。

第二に、ツェニの形式がもつ双方向の伝達コミュニケーションという行為の重要性である。これは糸永正之がツァンモのことを「交互唱による対面伝達行動」と述べていることと深く関係してくる (糸永1986)。ツァンモにおいては、ツェニに代表されるように、相手と対面し交互に歌い合い、伝え合う行為が大切にされる。ツェニは交互唱であり、闘い (ツェニ) であるから、モタブニ等とは異なり、詩文の内容により人差し指を相手に差し向けたり (ツェニ2)、指を合わせたり (ツェニ4)、あるいは相手を平手打ちするしぐさをしたり (ツェニ8) するなど、身体的な所作や表情はきわめて豊かになってくる (写真7, 8, 9)。

この行為は男女の間でなされることも多いが、例えば今枝は、東ブータンにおける近年までの夜這いの風習や妻問婚を紹介し、「男女が結ばれるまでの過程で、ツァンモとよばれる相聞歌が大きな役割を果たしている」と指摘し、「一対一で、あるいはグループで連綿と続けて、男を女は徐々に親しくなり、ついには結ばれていく」と述べる（今枝2007:108）。このように男女の恋愛に限らず双方向的に展開されるツァンモの対面伝達行動は人と人との強く結びつけていく。



写真8 ツェニの所作 (ブナカ 2012)



写真9 ツェニの所作 (サムテガンセントラルスクールの学生 2016)

以上の二つの要素が一体化したもので、すなわち「占い」や「祈り」を核とした対面伝達行動がツァンモという行為を生み出しており、この点がツァンモをツァンモたらしめているのではなかろうか。

6.2.2 掛け合いと即興という行為の特性から

さて、ツァンモは、掛け合いと即興による歌あそびであるが、これは何もツァンモに限ったことではない。5.2では、ショーレモやアオサといった歌が話題に上っているが、そこからもわかるように、歌の掛け合いはツァンモ以外にも日常生活の中で行われていた。これらとツァンモとを比較検討することにより、ツァンモの性格をより明確にすることができるだろう。

5.2において、ショーレモと歌ったりアオサを相手に投げかけたりする歌詞については、取材時の宿のオーナーであるペマ・ウォンモ (Pema Wangmo) が、次のような二種の歌詞を紹介してくれた。

①パキ (地搗き) の時、作業の動きに合わせて歌う。ダ・ルーが多い。

Ausa phaley jumisa korey	その辺で歩いている人
Choe ju nibey jun sa korey	あなたそんな歩き方だったら
Ju do ma ju mindy sa korey	歩かないほうがいい
Thirdu phindey sharu sa korey	今は月も出てきていますけど
Goley bemo ma yesa korey	あなたの頭に霜がまだある (白髪頭ですね)

②遠くの方の人に歌う。さみしい。ニエン・ルーが多い。

Gan asa phaley jomimo sho ley mo ya	向こうの方に歩いている人
Gaw tsu ley garu lo cho ley sho ley mo ya	こっちの人 (私) が好きならこっちに来てください

普段の生活において、パキ (地搗き) をしたり、田植えや草刈りといった作業をしたり、あるいは、ツァンモなどで遊び疲れたりした後に、このような歌詞を相手に歌い投げかけて遊ぶ。すると相手からもまた歌の返しがある。

聞き取りからは、このような歌の姿とツァンモとの違いが明らかになってきた。すなわち、①歌詞はツァンモと同様のものも多いが、後半に korey や sho ley mo ya が入る。②ツァンモのように対面座しては行わず、他の作業をしながら (でも) 歌う。③グループではなく、一対一が基本となる。④占わない。

ここからは、日常会話的な歌の掛け合いの様子が見えてくる。これに対してツァンモは、対面で座して集

まり、互いの相性や人生の予言や占いをする行為として認識されていることがわかる。ここでも予言や占いを基本とした歌による双方向の対面伝達行動といったツァンモの姿が浮かび上がってくる。

7 終わりに

我々のツァンモ調査は少なくとも調査日の夜は、ハの人びとに影響を及ぼした。民宿 Pema Wangmo Stay at Home では、我々が調査の整理をする横で宿のオーナーであるペマ・ウォンモは何度もツァンモを歌っていた。昔ヤク飼いをしていたペマ・ウォンモの夫は正装してツァンモ調査を見学に来ていた。自らはツァンモを歌わなかったが、ツァンモを聴きながらずっと笑っていた。調査の翌日、歌詞の確認のためペマ・ウォンモがカチを宿に呼んでくれ、宿で昼夜ツァンモの確認作業を行った。夜、この地区の若い議員が泊りにきたので一緒にアラ・ゴンド (*ara gondo* 卵酒) を飲んで話した。議員はすでに我々のツァンモ調査の様子を知っていた。というのは、我々のツァンモ調査の映像を宿のテレビで映していたのをペマ・ウォンモがスマートフォンで撮影し、WeChat のツァンモ・グループへ送信していたのである。議員もグループのメンバーだったようで、ペマ・ウォンモに「(あの映像をアップしたのは) あなただったか」と言っていた。以前、学校やラジオでのツァンモ・コンペティションについて報告を行ったが (伊野ほか2017)、現在は WeChat でツァンモ・コンペティションが行われているという。ラジオに比べ、それほど参加へのハードルは高くないという。ともかく我々の調査の影響で、昨日今日あちこちで皆がツァンモを歌っているという。昔ながらのやり方ではツァンモは歌われなくなっているが、一方で WeChat のツァンモ・グループのような新たな歌い手/ファン・聴衆/ネットワークがうまれている。もしくは新しい「ツァンモ」がうまれてきている。

【引用文献】

- 今枝由郎訳、ツァンヤン・ギヤムツォ著 (2007) 『ダライ・ラマ六世恋愛彷徨詩集』 トランスビュー。
- 糸永正之 (1986) 「ブータンの「相聞歌」—交互唱による対面伝達行動の予備的研究—」『学習院大学東洋文化研究所研究報告 No.21』 学習院大学, pp.43-127.
- 伊野義博 (2012) 「ブータン歌謡ツァンモ—掛け合いと占いの諸相—」『民俗音楽研究』 第37号, pp.1-12.
- 伊野義博, 黒田清子 (2014a) 「ブータンのツァンモ, 掛け合いと占いの諸相—ブナカにおける調査から—」『民俗音楽研究』 第39号, pp. 37-48.
- 伊野義博, 尾見敦子, 黒田清子, 権藤敦子, 山本幸正, Tshewang Tashi, Pema Wangchuk (2014b) 「ブータン歌謡ツァンモの実際—トンサ県ツァンカ村とタンシジ村の場合—」『新潟大学教育学部研究紀要』 第7巻第1号, pp. 81-99.
- 伊野義博, 黒田清子, 権藤敦子, Pema Wangchuk (2015a) 「ブータン歌謡カプシユーの実際—タシガン・メラ村の場合—」『新潟大学教育学部研究紀要』 第7巻第2号, pp.335-359.
- 伊野義博, 黒田清子, 権藤敦子, ペマ・ウォンチュク (2015b) 「ブータンの遊び歌 ツァンモとカプシユー—トンサとタシガンにおける調査から—」『民俗音楽研究』 第40号, pp. 1-12.
- 伊野義博, 黒田清子, 加藤富美子, 権藤敦子, 山本幸正, ツェワン・タシ, ペマ・ウォンチュク (2016) 「ブータンの遊び歌ツァンモ—学校教育における継承の取り組み—」『新潟大学教育学部研究紀要』 第8巻第2号, pp. 167-192.
- 伊野義博, 黒田清子, 加藤富美子, 権藤敦子, 山本幸正, ツェワン・タシ, ペマ・ウォンチュク (2017) 「ブータンのあそび歌ツァンモ—学校教育における継承の取り組み その2—」『新潟大学教育学部研究紀要』 第9巻第2号, pp.301-324.
- 伊野義博, 黒田清子, ペマ・ウォンチュク (2018) 「ブータンの民俗音楽覚書—王様の音楽家ツェッテン・ドルジ, ダガナ県の遊び歌ツァンモ, 古い歌ダガ・ラ・ミ・ラジュとシヤム・シャ・ドレイ〜」『新潟大学教育学部研究紀要』 第11巻第1号, pp.69-90.
- 伊野義博, 黒田清子, ペマ・ウォンチュク (2019) 「ブータン・ガザ県ラヤツパの民俗音楽—ツァンモとオレを中心に—」『新潟大学教育学部研究紀要』 第12巻第1号, pp.57-75.
- 黒田清子 (2014) 「ブータン文化の諸相—掛け合い歌ツァンモ (tsangmo) の歌詞からの考察—」『金城学院大学論集 人文科学編』 第11巻第1号, pp.193-220.

- 黒田清子 (2016) 「ブータン文化におけるあそび歌『ツァンモ tsangmo』の位置付け—ジグミ・ドゥツパ氏へのインタビューをてがかりに—」『金城学院大学論集 人文科学編』第12巻第2号, pp.112-120.
- 黒田清子, 伊野義博, 権藤敦子 (2017) 「音楽文化の視点から教科内容としての『歌うこと』を捉え直す—ブータンの掛け合い歌に見られる双方向性をてがかりに—」『音楽教育学』第47巻第1号, pp.25-36.
- 権藤敦子, 伊野義博, 黒田清子, Pema Wangchuk(2015) 「歌唱における学習過程の再考—ブータン歌謡ツァンモの調査を手がかりに—」『初等カリキュラム研究』第3号, 広島大学大学院教育学研究科初等カリキュラム開発講座, pp.23-35.
- 馬場雄司 (1990) 「ブータンの新築儀礼」『民族藝術 vol.6』民族藝術学会 pp.44-59.
- 藤井知昭 (1991) 『ヒマラヤの楽師たち』音楽之友社.
- 星実千代 (1980) 「チベットの歌合戦」『YAK4』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 pp.1-15.
- 八木祐子 (1990) 「ブータンの悪霊祓い」『民族藝術 vol.6』民族藝術学会 pp.60-75.
- R.A. スタン著, 山口端鳳, 定方晟訳 (1971) 『チベットの文化』岩波書店.
- John Powers (1995) *BON-A HETERODOX SYSTEM, A Collection of Studies on the Tibetan Bon Tradition*. Serinda Publications, London. pp.26-28.
- Lam Pema Tshewang (2013) History of the Has (Ha) Valley, *Journal of Bhutan Studies Volume 5(4)*, Center for Bhutan Studies, Thimphu. pp.50-56.
- Jagar Dorji(ed.) (2015) *INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE OF BHUTAN*, Research & Media Division, National Library & Archives of Bhutan.